

図画工作科教育研究部

【令和元年5月現在】

主任 外崎 美佳

部員 下山 明子, 坂本 卓也

目指す児童の姿

共につくりながら、自分らしくやり切る児童

図画工作科における納得解を導く姿を、「共につくりながら、自分らしくやり切る児童」と設定し、研究に当たる。

I 目指す児童の姿について

1 具体として

(1) 「共につくりながら」とは

自分たちの活動や作品について、視点をもった話合いを基に、つくったり表したりすることや、教師の意図的な配置による活動する場所や材料・用具等を共有しながらつくることである。友人と関わりながらつくることにより、どのような形や色にするか、それを実現するために用具や表し方の工夫について考える力や一度つくったものを改めて見直し、新たなものをつくりだそうとする力等が働き、児童の新しい発想や構想につながる。

(2) 「自分らしくやり切る」とは

自分の思いを基に活動を充実させ、自分が納得するまでつくったり、活動の終わりを自分できめたりすることである。具体的には、児童が題材のめあてや材料等から、それまでの経験を生かして発想や構想をしたり材料や用具を活用したりして、自分なりに納得のいく活動や作品ができたという実感や満足感を得て活動を終えることである。

II 研究内容について

目指す児童の姿に迫るために、一年次は、研究内容として以下の二点に取り組む。

1 視点を明確にした言語活動の設定

表現の活動の初めや途中の段階で、友人の作品や活動、教師の作品例等を見て言語活動をする鑑賞の場面を設定する。そこでは、感じたことや思ったこと、考えたこと等と話したり聞いたりする、言葉で整理する等、形や色、表し方の工夫等の視点を明確にした言語活動となるように、発問や板書の工夫をしたり意図をもって鑑賞する作品等を取り上げたりする。

言語活動の設定に関しては、題材の中のどの段階で取り入れるかについて製作途中の作品や活動、発言等から検討し、児童が自分の作品を紹介したり友人と話し合ったりしたくなるような場面での言語活動となるように留意する。

2 児童の発想や構想についての多様性を踏まえた題材の設定

題材設定の際には、新学習指導要領の内容を意識し、題材全体や一時間で育成を図る資質・能力を図に表し明確にする。その表を踏まえ、題材設定の際には、以下の二つの工夫を取り上げる。

一つ目は、材料や用具の種類や数、活動する場所等について工夫をする。具体的には、その題材で育成したい資質・能力を踏まえ、例えば紙を材料とする題材では、固さや手触りの違う紙を用意すること、つくっている途中で考えが変わってもつくり変えることができるように材料の量にも配慮すること等

である。用具については、表したいことに合わせて適当な用具を選べるようにしたりすることや使い方について提示したりすることである。活動する場所については、活動の内容、作品の形や大きさ等に合わせて設定する。

二つ目は、児童が各題材で使用した材料や用具をシートにまとめ、積み重ねることにより、教師が児童の経験を把握することで次の題材設定に生かせるようにする。

Ⅲ 研究・検証方法について

上記の実践は、児童の行為や発言、作品、振り返りカード、また記録した映像等を基に、児童一人一人の変容を捉え、検証を行う。

【参考文献】

岡田京子「学習指導要領実施状況調査・図画工作科の分析と改善点」文部科学省『初等教育資料』2015, 10
岡田京子『成長する授業 子供と教師をつなぐ図画工作』東洋館出版社, 2017, 1